

# シイタケ栽培施設で多発するキノコバエを減らすために

井戸好美

## 岐阜県の菌床\* シイタケ生産は？

岐阜県で生産される菌床シイタケは、昭和63年頃から飛騨地域や郡上地域など県北部を中心に農閑期作物として導入され、ビニールハウスなどで簡易に栽培できることから、順調に生産量を伸ばしています。また、出荷されるシイタケは、『やまっこ』ブランドとして県内外から高い評価を得ています。

ところが、近年このシイタケ栽培施設でキノコバエによる被害が問題となっています。

\*：菌床とは、オガ屑などに栄養源を混ぜて固めた培地のこと。この培地を養分にしてシイタケを育てます。



菌床から発生するシイタケ



## キノコバエによる被害とは？

キノコバエは、写真のように体長3～5mmほどの小さな虫で、直接シイタケは食べません。しかし、成虫は傘の裏に潜み、商品として出荷した後パック内に出てきます。当然こうしたシイタケは買ってもらえず、生産者にとっては大きな被害となります。それどころか、こうしたことが多くなれば、信用問題になりかねません。そのため、キノコバエを減らすことが重要です。

しかし、キノコバエの成虫を捕まえるだけでは幼虫を減らせないのが、根本的な解決になりません。また、シイタケは食用キノコなので、農薬は絶対に使えません。



スケールは5mm

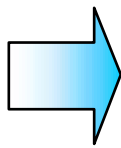
シイタケに付着するキノコバエ(矢印)

## 浸水処理法でキノコバエは減らせる

キノコバエを減らす方法は、浸水処理法（下図）です。  
 栽培袋の中に水を加えて菌床が水の中に沈んだ状態にします。その後、新しい水と交換することでキノコバエ幼虫を洗い流せます。



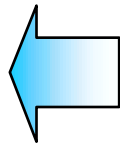
収穫後の菌床培地



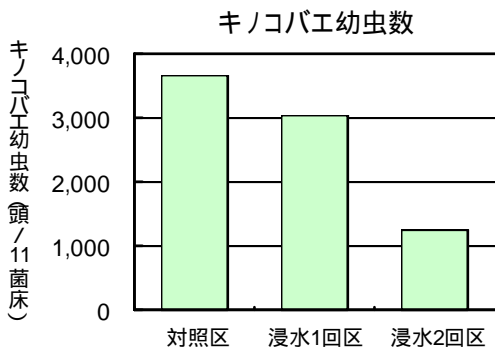
栽培袋内に水を加えて菌床が水の中に沈んだ状態で20時間程放置する



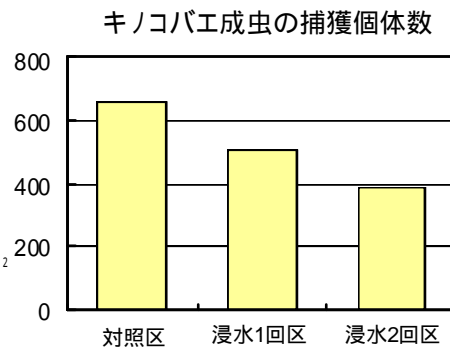
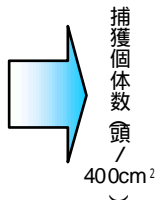
新しい水を加える



水をあげ出す



キノコバエの幼虫数を減らせます



キノコバエの成虫数を減らしました

処理時期は、キノコバエの発生密度が低い12月頃行うと良い。  
 処理回数は、1回よりは2回行う方がキノコバエを減らす効果は高い。